週刊「考歴民（これみ）」 Ｎｏ38　2021.12.13

交野古文化同好会

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

=東車塚（一次）発掘から半世紀=

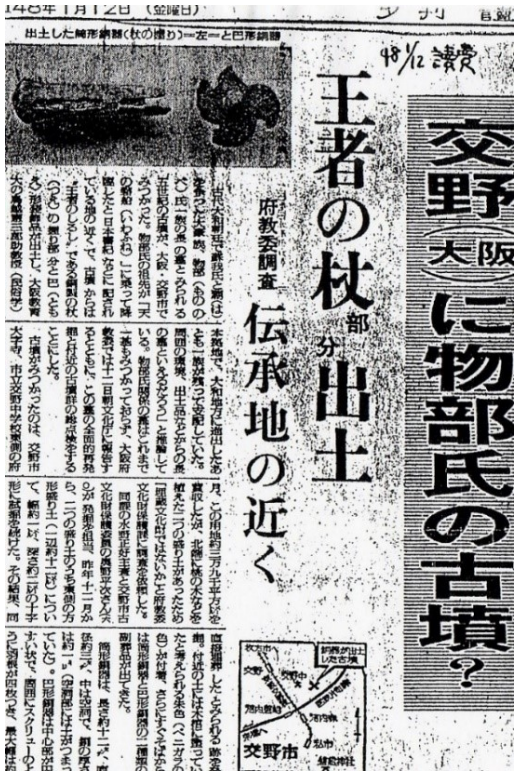
一本の電話から

古墳、でたんや!! チョット見に来たら

どこで、古墳って、行きますわ、場所はどこでんねん

中学校の北の道を南川沿いに寺村に向かって来たら。

片町線（JR）の踏切、左側が東車塚古墳



48/12 讃賛

交野（大阪）に物部氏の古墳？

王者の杖部分出土

府教委調査　伝承地の近く

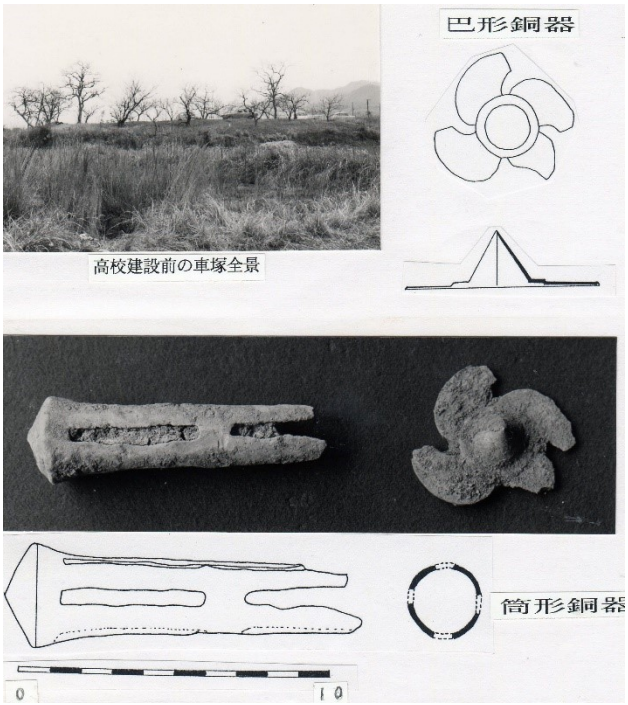
出土した筒形銅器（杖の石突）＝左＝と巴形銅器

1972(昭和 47).12.16

東車塚（前方後方墳）と南川（小字南野）仮称府立交野高校建設用地の試掘調査が始まる。古墳の北は南川に接している。

古墳後方墳部の試し掘りで、中央部から木棺に塗っていた朱色の土が付着、注意して堀り進むと青色の遺物の一部が見えた。

筒形銅器と巴形銅器であった。



1972(昭和 47).12.18

大阪府、水野主査来所。

筒形銅器などを見て、素晴らしい遺物が出土しましたね。

この部分をこれ以上は掘り進めないようにしましょう。

古墳の南に埴輪片が多量に散見する箇所があるため、それぞれの地点を詳しく調査する必要がある（第三古墳の発見）

用地内から南に離れた学校用地（低地）に何故、埴輪片が発見されるのだろうという疑問について水野氏は、その場所が埴輪を制作した場所であるか、儀式をした場所か、南川にそって祓へをした場所などという意見もあるが私は水田化で削平された古墳の跡、とくに濠の中に埋まったものと考えているとのことでした。

昔は東車塚古墳の南側に南川が流れていたのでしょう。

（水野氏談）

よみうり新聞掲載（1972.1.12）

1972.12.26

南野の高校建設用地の発掘調査始まる。

第３号古墳（日の丸古墳）

土壙墓より弥生の壺

報道発表

まるい墳丘に四角の堀　朝日新聞

ヘンな古墳群を発見

交野　朝廷の衰退裏づけ？

円形の墳丘に方形の堀をめぐらした、珍しいかたちの古墳がこのほど交野市寺で見つかった。調査にあたった大阪府教委文化財保護課の説明では、五世紀末から六世紀初めの築造らしく「ちょうど大和朝廷の勢力が一時的ながら衰え、古墳に対する統制がきびしくなっていたころ。この頃から古墳は、統制の象徴を再付ける建造物の親柱になりそう」といっている。

見つかった場所は、来春開校する大阪府立高校の建設予定地。田んぼの中で、墳丘部分は盛土時代に削りとられたとみられるが、発掘調査の結果、墳丘の平面は直径二十二・四メートル、その周辺を一辺二十六・五―二十八・八メートルの堀が取巻いていることがわかった。墳丘と同じ形をめぐらす堀は、墳丘と同じ形をしているのが普通。このように、円と四角を組合わせた形の古墳は全国的に例がないと同課はいう。

なぜ、こんなアンバランスな古墳がつくられたのか―。同保護課の水野正好主査の推測はこうだ。大和朝廷の古墳に対する統制は、大化改新の薄葬令が知られているが、それ以前も、官位や家格などによって大小を定め、時代によって形、規格を決めていた。ところが、五世紀末から六世紀初めごろは、朝廷の権威が低下した反発、人の目を驚かす古墳をつくったものがいた。そう考えても、よいのでは」。

調査では、このほかに学校用地内で方墳と円墳、すぐ近くの民有地で方墳と計四つの古墳を確認。同教委は「重要な古墳」と名づけ、学校を設計変更して保存することにした。

四角い堀の中に円形の墳丘がある珍しい組合せの古墳（交野市寺で＝大阪府教委提供）

毎日放送「こんにちは真樹子」やった?

現地説明会

短甲埴輪

1972.12.16 から 1973.713 まで古墳発掘現場に、何もわからずおじゃました。

結果いろいろなことを教えていただきました。

チョット見に来ないか、の電話に・・・、また、現場でチョット見に行かないか

に誘われました。大東市の堂山古墳でした。

チョットの言葉にチョット耳を傾けることが大切ですね

次回は 12 月 20 日